聞こえにくいかな？と思ったら

3月3日はひな祭りと耳の日ですね。耳にちなんで今月は「きこえ」のお話をしましょう。

▶きこえにくいかな？と思ったら…

あなたが、またはあなたのご家族や身近な方が、「最近どうもきこえにくいのでは？」と思ったら、まず耳鼻咽喉科を受診してください。耳鼻咽喉科では耳の診察をして、きこえの検査をします。本当に難聴があって、治療で治せるような病気であれば治療しましょう。でも、中には治らない難聴もたくさんあります。そのようなときは補聴器をつけることを考えましょう。**当院耳鼻咽喉科の医師2名は日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医ですので、どうぞ遠慮なくご相談ください。**

▶補聴器について

補聴器にはたくさんの種類があります。ねだんもさまざまです。ご自身のきこえや生活スタイルにあった補聴器を選び、きちんと調整しなければなりません。耳鼻咽喉科では言語聴覚士が補聴器技能者とともに補聴器を合わせ、医師が確認します。うまく使えそうなら2週間前後貸し出しますので、実際に使ってみて補聴器が役に立つかどうか試してみてください。もし合わなければ再調整もできますし、補聴器を使うのを見合わせても構いません。ご自分が納得できる補聴器を選びましょう。

また、うまく補聴器を使い始めても、そのあとの管理は大切です。**少なくとも半年に1回は、耳の状態の検査と、補聴器の点検を受けましょう。**

▶人工内耳について

補聴器が役に立たないくらい重度の難聴の方には、人工内耳が役に立つことがあります。人工内耳を使うためには手術が必要で、機器も複雑になります。術後のリハビリテーションも大切です。興味のある方は耳鼻咽喉科にご相談ください。

▶まわりの配慮も大切です

補聴器や人工内耳は完璧な機械ではありません。機器を使ってもきこえにくいことはたくさんあります。そんなとき、まわりの方の配慮がとても役に立ちます。きこえにくい方と話すときには、次のようなことに気をつけると良いでしょう。

- **顔を見て、口の形や表情がよくわかるように話しましょう。**
- **少しゆっくり、はっきり話しましょう。**
- **補聴器や人工内耳をつけていれば、大声で話す必要はありません。**
- **まわりの雑音がない、静かなところで話しましょう、**
- **わかりにくいことば、きき取りにくいことばはわかりやすく言いかえてみましょう。**
- **大事なことは書いて伝えるといいでしょう。**

三重病院の受付や耳鼻咽喉科の外来では、振動式の呼び出し器や筆談ボードを用意しています。必要な方はお気軽に声をかけてください。

（耳鼻咽喉科医長　増田　佐和子）

◀筆談用ボード

振動式呼び出し器▶

三重県予防接種センターよりお知らせ

予防接種実施規則が一部改正となりましたのでお知らせ致します。

「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」の運営はH24年度も継続されます。（公費助成）

～この事業の対象となるワクチンは、以下の3種類のワクチンです～

- **子宮頸がん予防ワクチン**（ヒトパピローマウイルスワクチン
  組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（商品名：サーバリックス®）
  組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（商品名：ガーダシル®）
- **ヒブワクチン**（ヘモフィルスインフルエンザ菌b型ワクチン）
  乾燥ヘモフィルスb型ワクチン（商品名：アクトヒブ®）
- **小児用肺炎球菌ワクチン**（肺炎球菌ワクチン、肺炎球菌コンジュゲートワクチン、肺炎球菌結合型ワクチン）
  沈降7価肺炎球菌結合型ワクチン（商品名：プレベナー® 水性懸濁皮下）

①「子宮頸がん予防ワクチン」：13歳のお誕生日の属する年度の初日から16歳のお誕生日の属する年度の末日までの間にある女性（中学1年生～高校1年生世代）。

なお、例外として、平成23年度において、16歳となる日の属する年度の末日までの間にある者で、平成24年3月31日までに、本事業に基づき1回目又は2回目の接種を行った方はH25年も接種可能となります**（現在高校1年生の人で、今年の3月までに1回でもHPVワクチンの接種を受けた人は平成24年度に残りのワクチンが公費助成で接種できます）。**

②「ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン」：2か月齢以上5歳未満が対象者です**（1歳以上5歳未満の人も公費助成で接種できます）。**

（三重県予防接種センター　木下　麻衣子）